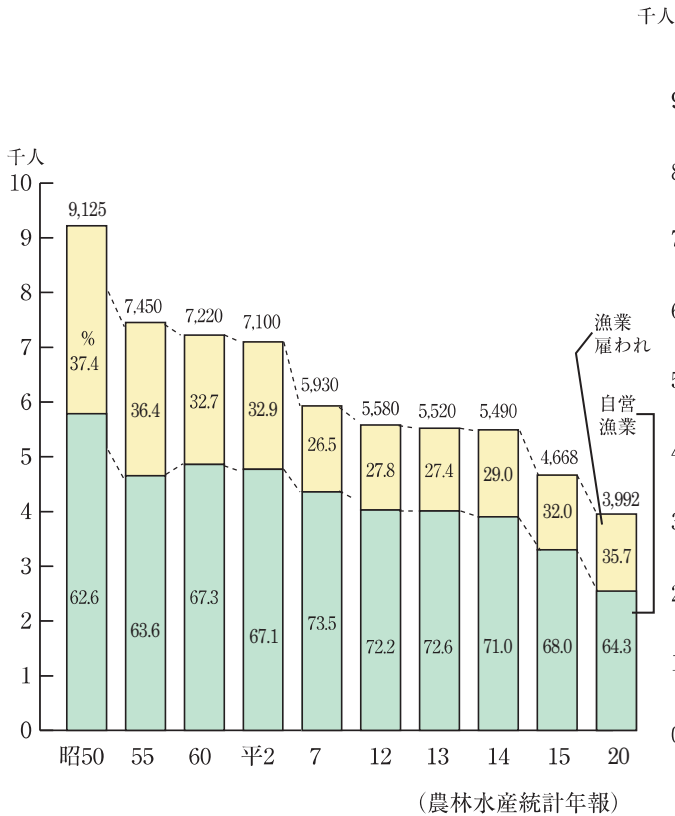


3 水産部門

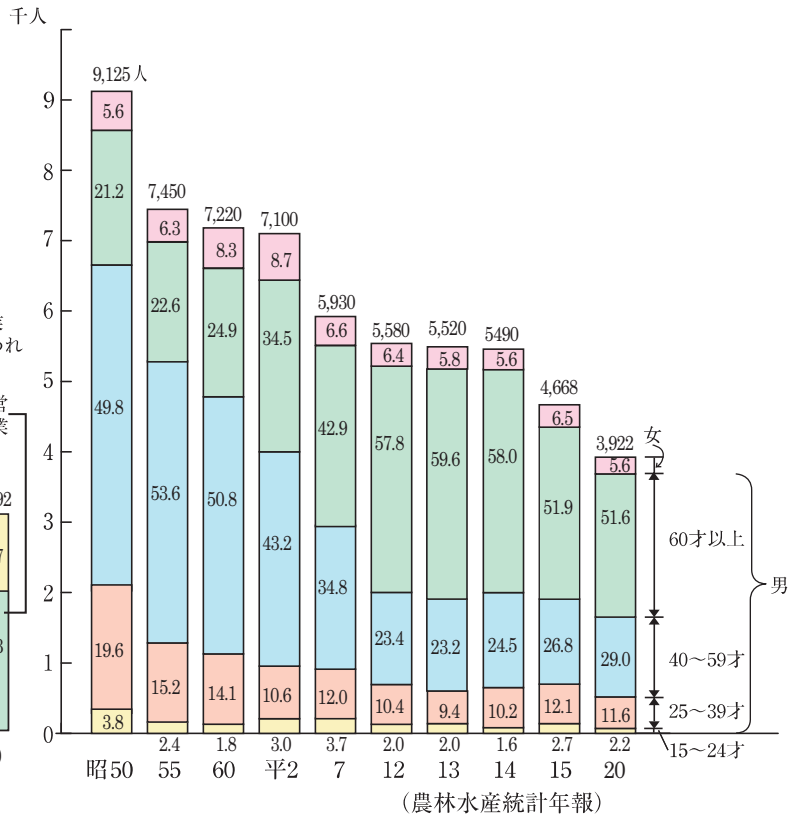
1) 水産業を担う人々

漁業就業数は減少傾向で推移しており平成20年の漁業就業者数は3,922人である。
 また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が51.6%を占め高齢化が進んでいる。

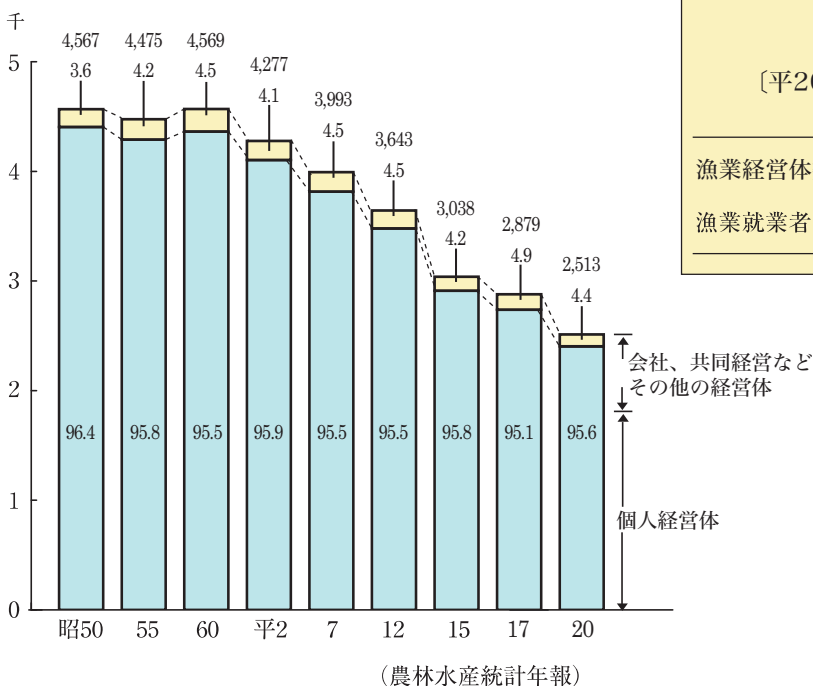
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移

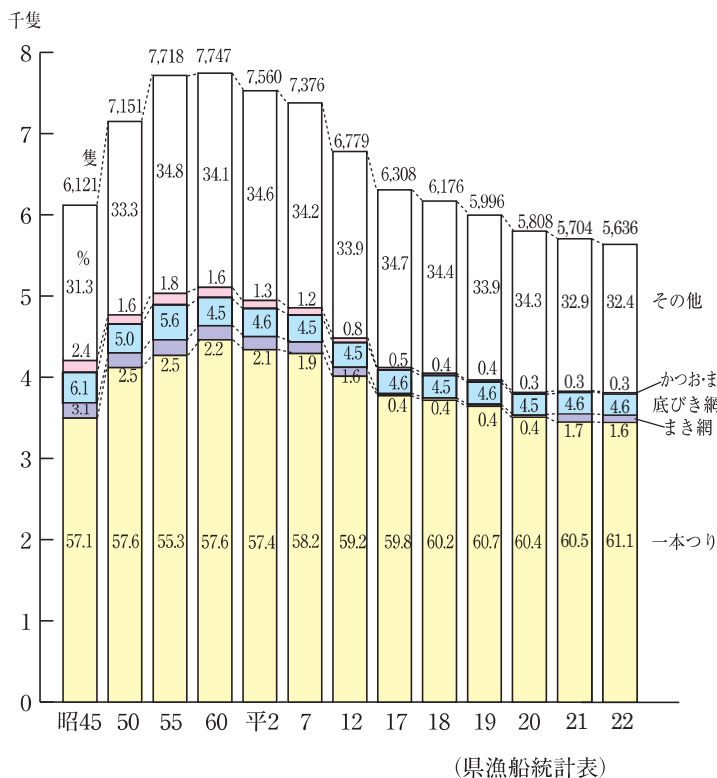


〔平20〕	全国	和歌山県	順位				
	実数	実数	順位	シェア (%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
漁業経営体数	115,196	2,513	20	2.2	北海道	長崎	岩手
漁業就業者数(人)	221,908	3,922	22	1.8	北海道	長崎	青森

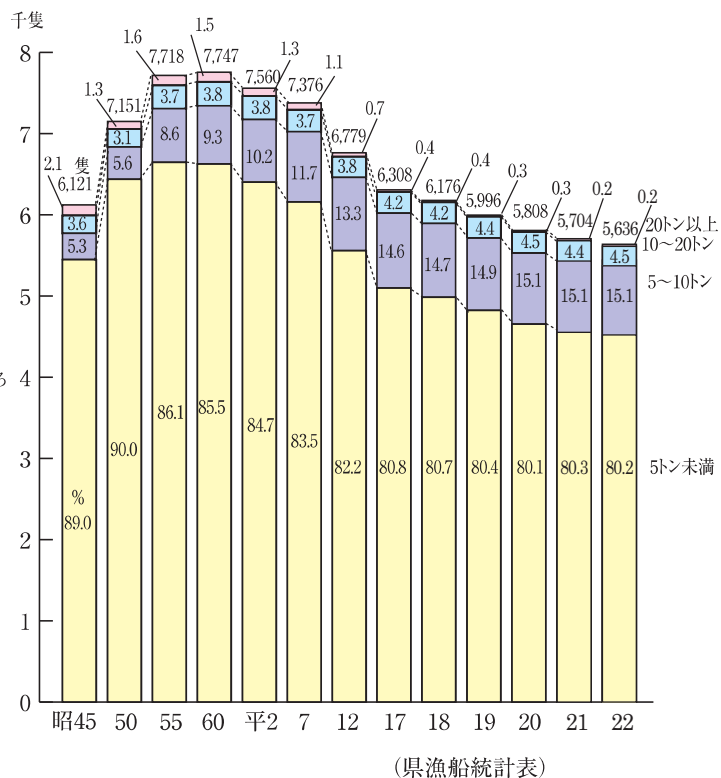
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成22年12月末日現在では5,636隻となっている。漁業種類別では「一本つり」が61.1%、「底びき網」4.6%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.2%と大半を占めている。

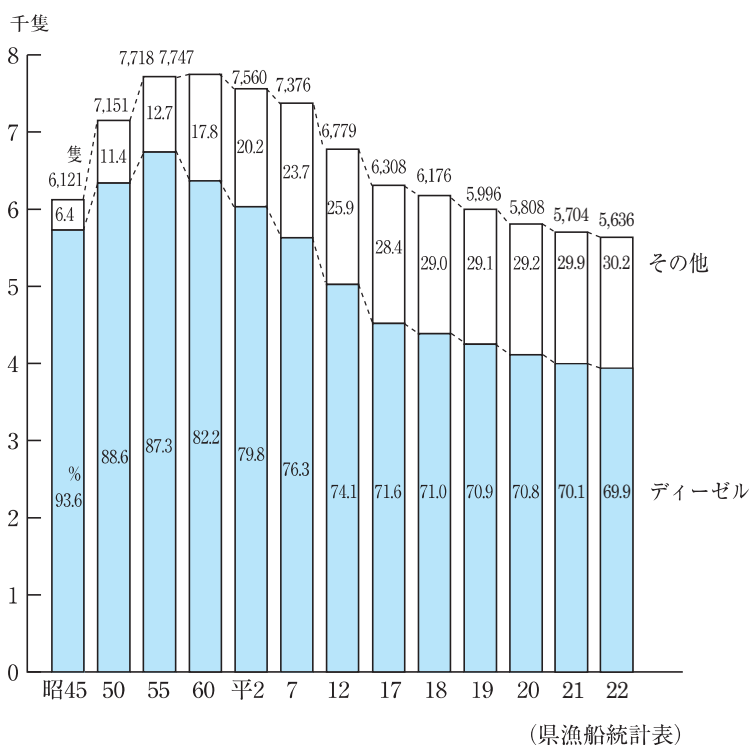
漁業種類別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種類別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,916港）の漁港と、122地区（全国4,686地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

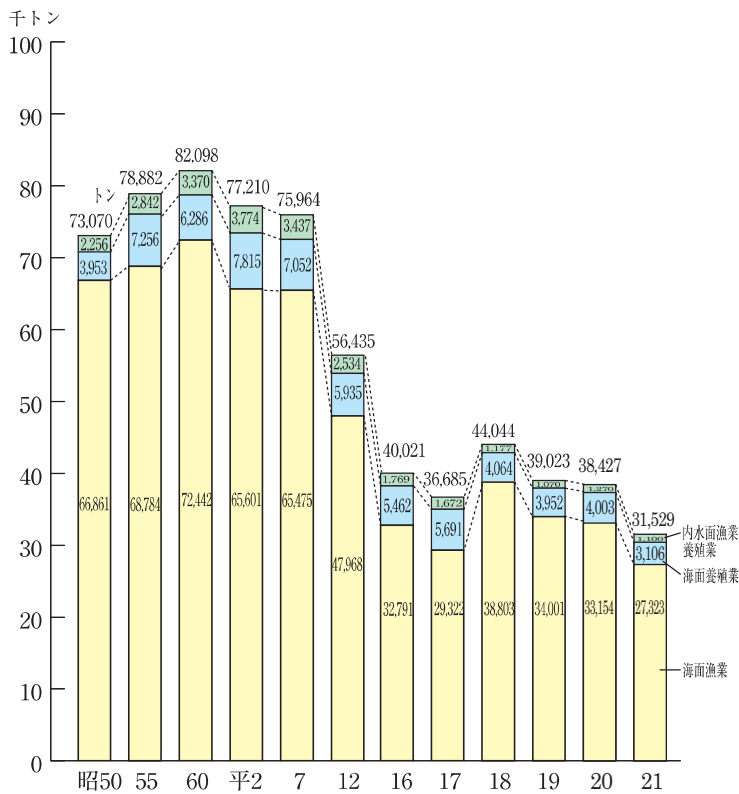
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3) 水産業の生産

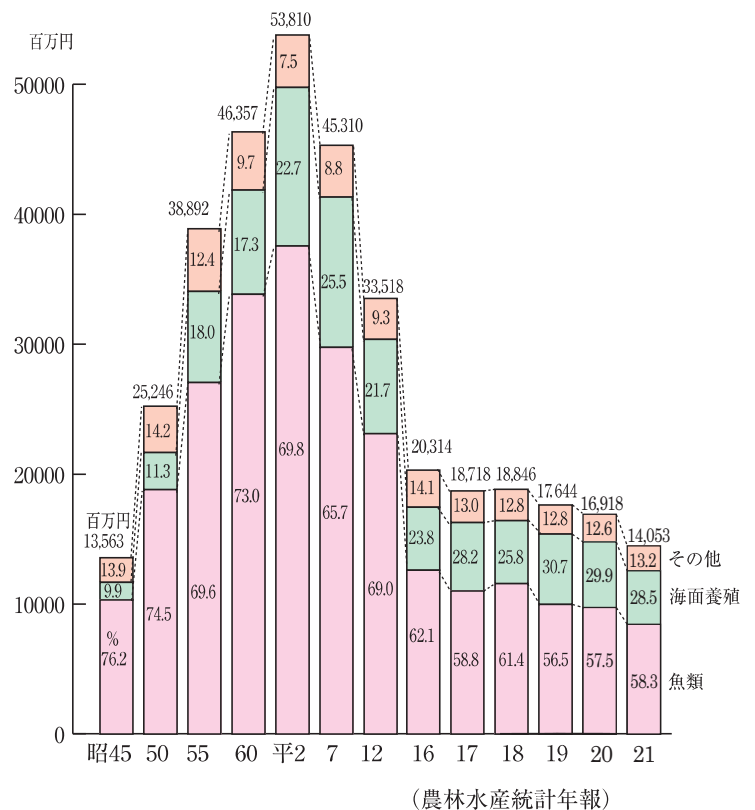
漁業・養殖業の生産量は昭和60年の82,098 t をピークに減少傾向にあり、平成21年は31,527tとなっている。

海面漁業・養殖業生産額は平成2年をピークに減少傾向で平成21年は140億53百万円でピーク時の26.1%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業生産額の推移



漁獲量

〔平21〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(t)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	4,147,374	27,323	27	0.66	北海道	長崎	宮城
魚類	3,172,934	24,754	27	0.78	北海道	長崎	宮城
えび・かに・いか・たこ	393,701	1,454	30	0.37	北海道	青森	岩手
貝類	400,845	98	37	0.02	北海道	愛知	三重
海藻類	104,103	630	13	0.61	北海道	愛知	青森
海面養殖業	1,202,072	3,106	24	0.26	北海道	宮城	広島

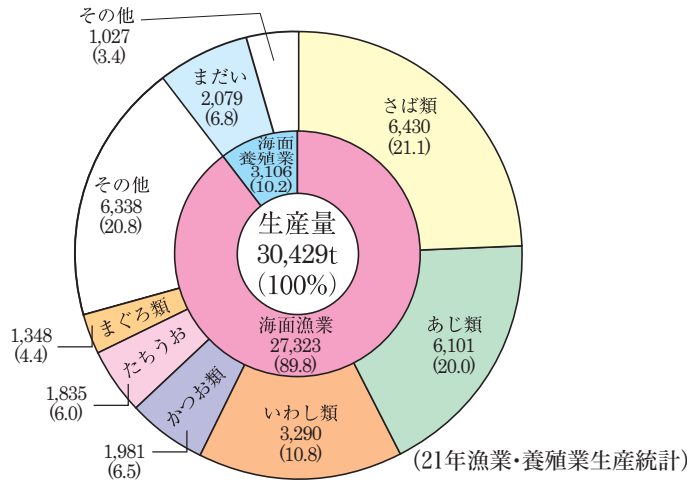
生産額

〔平21〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(百万円)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	974,192	10,044	27	1.05	北海道	長崎	静岡
海面養殖業	409,497	4,009	23	1.21	北海道	愛媛	鹿児島

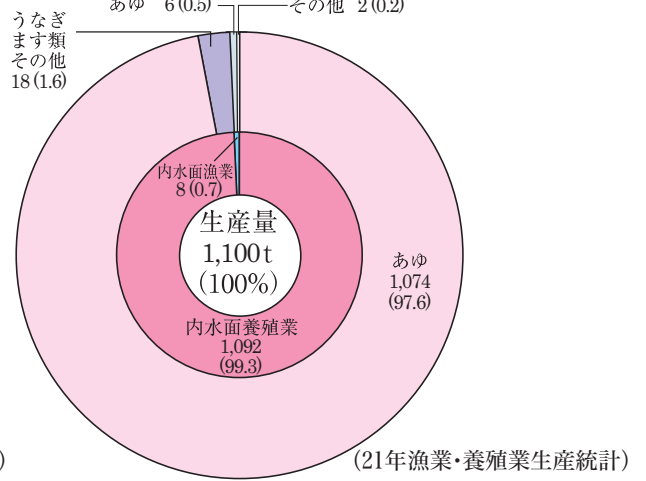
4) 主な魚種別漁獲量・生産額の推移

平成21年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類21.1%、あじ類20.0%、かつお類6.5%、たちうお類6.0%となっている。海面養殖業ではまだいが66.9%を占め、内水面漁業・内水面養殖ではあゆが98.2%となっている。

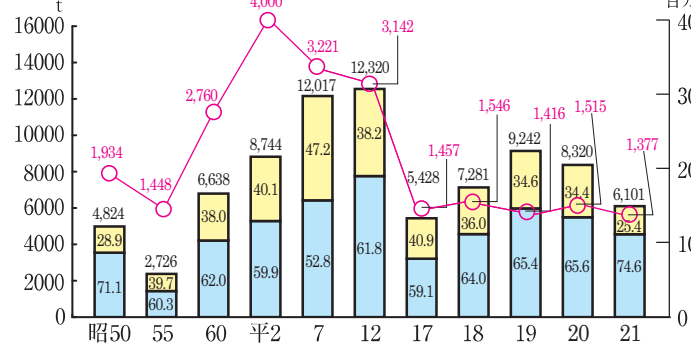
海面漁業、養殖業魚種別生産量（平21）



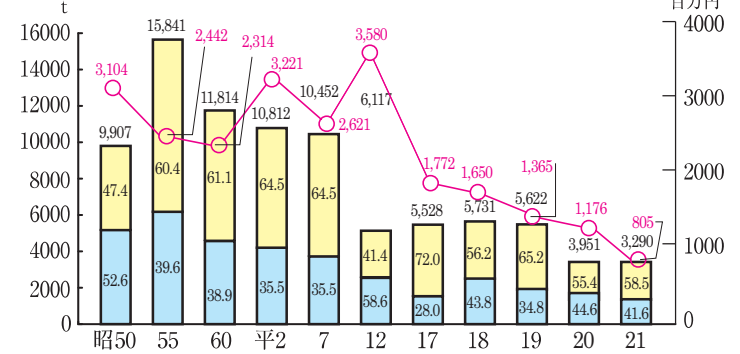
内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平21）



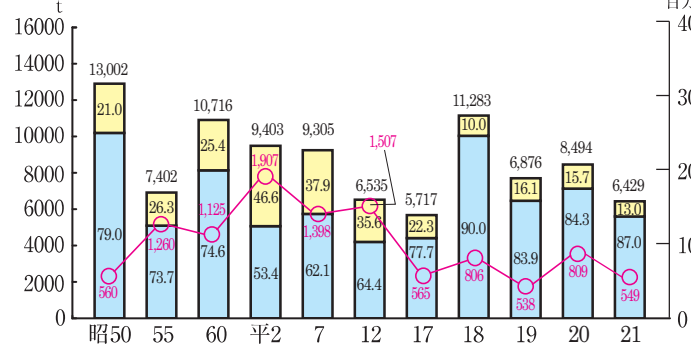
あじ類



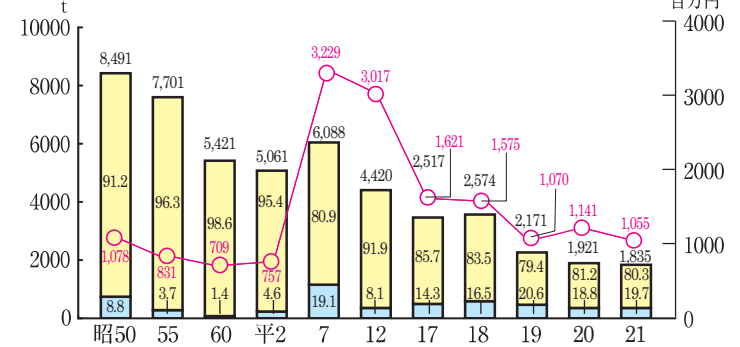
いわし類



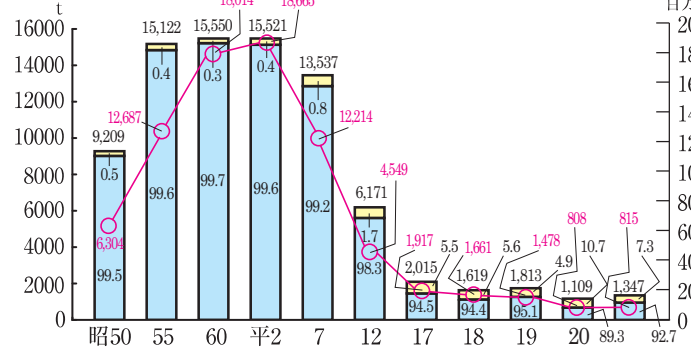
さば類



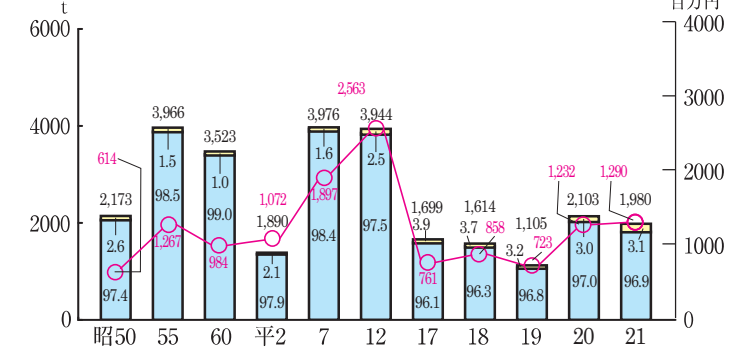
たちうお



まぐろ類



かつお類



漁獲量 瀬戸内海区 太平洋南区 生産金額(百万円)

(農林水産統計年報)